

特別展「古写真にみる高岡」出品リスト

〔会期：平成30年6月2日(土)～8月19日(日)〕

I. 写真絵葉書にみる高岡

1. 高岡古城公園

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先
1	「越中高岡城跡」	1907～18年頃	1	大手口から枳形堀を写したもの	当館
2	「高岡公園内堀」	大正期頃	1	古城の滝付近から明丸・鍛冶丸方面を写したもの	高岡市
3	「(高岡名勝) 高岡古城公園(其二)」	1907～18年頃	1	本丸東側にある古城の滝付近を写したもの。この滝は1903年頃広瀬万次郎(京都の庭師・小川治兵衛の弟子)の作	当館
4	「高岡古城公園」	1907～18年頃	1	二の丸ー本丸間の土橋を歩く女性たち。正面奥には本丸の射水神社が見える	当館
5	「高岡古城公園 本丸」	1942～60年頃	1	射水神社周辺を歩く人々	高岡市
6	「(高岡名勝) 射水神社(国幣中社)」	1933～44年頃	1	射水神社は、1875年9月に二上山麓(現・二上射水神社)から本丸に遷座された	当館
7	「雪の射水神社(高岡) / 高岡小唄」	1935～44年頃	1	上は雪が積もる射水神社を神明型の鳥居の外から写した写真。下は「高岡小唄 二」の歌詞が刷られ、「越中美人」の女性が写る。高岡小唄は1935年12月にポリドールレコードから発売され、県内で5,000枚も売れたという(作詞：名部島春作 / 作曲：野村豊繁 / 歌：浅草ペ香)	当館
8	「高岡公園船見山」	1918～33年頃	1	本丸北隅の高まり「船見山」を写したもの。江戸後期の古記録『瑞龍院様高岡二御築城ノ件』には、ここから伏木湊の船の帆形が見えたことと記されている。「船見山」とするのはこれとNo.9の絵葉書のみ	高岡市
9	「高岡公園(其六) 船見山御慶事記念松」	1907～18年頃	1	現在の本丸北隅辺りを写したもの。当時この高まりは「船見山」とよばれていたらしいことがわかる。「御慶事記念松」とは、1909年の皇太子殿下(後の大正天皇)行啓記念に植樹した松(右上の松か)とのこと	当館
10	「皇太子殿下行啓の児童手旗体操」	1909年	1	行啓に際し、本丸で市内の小学生が整列し手旗体操が行われている様子。他に高岡御車山7基を揃えて上覧していただいた	高岡市
11	「本丸球場」	1947～70年頃	1	本丸球場で野球をする少年たち	高岡市
12	「高岡公園運動場ノ桜」	1918～32年頃	1	明丸前通路から三の丸方面を写したもの。右(現・動物園)は運動場であったことがわかる	当館
13	「高岡古城公園」	1907～18年頃	1	本丸で運動会競技が行われている様子。「船見山」から写したものか	当館
14	「高岡公園大広場」	1907～18年頃	1	現在の本丸広場の中央より北東方面を写したもの	当館
15	「(高岡名勝) 古城公園広場と瑞龍前田公遺徳碑」	1933～44年頃	1	本丸の西側から北東方向を撮影したもの。右側には「瑞龍前田公遺徳碑」(1918年9月建立)が見える	当館
16	「高岡公園皇太子殿下行啓御野立所」	1909～18年頃	1	1909年10月2日に皇太子殿下(後の大正天皇)が高岡古城公園に行啓した際、本丸北隅に設置された「御野立所」の跡。現在は石碑が立ち、面積は1/3程に縮小されている	当館

17	「高岡公園御野立所」	1909～18年頃	1	写真奥には「皇太子殿下御野立所」跡を囲む鎖の柵がみえる。樹木が少なく見晴らしがよい	当館
18	「(高岡名勝) 古城公園の景」	1909～33年頃	1	かつて後の児童公園(本丸北隅)にあった銅像「唐子群像」(戦時中に供出)が載る噴水。写真奥には「御野立所」跡を囲む鎖の柵がみえる	当館
19	「越中 高岡公園(其一)」	1907～18年頃	1	本丸または小竹藪を写したものか	当館
20	「越中 高岡公園(其三)」	1907～18年頃	1	本丸北側を写したもの	当館
21	「(高岡名勝) 古城公園の一部」	1909～18年頃	1	本丸北隅にあった四阿2棟を写したもの。左奥のものが1909年の皇太子行啓の際の御野立所と思われる	当館
22	「(高岡名勝) 古城公園中の島」	1907～32年頃	1	水堀ではボート遊びをしている	当館
23	「高岡公園(其二)」	1907～18年頃	1	現在の朝陽橋から北を写したもの。中の島は1909年の皇太子行啓に向けて1907年に造成された。遠景に二上山が見える	当館
24	「(高岡名勝) 古城公園桜の中ノ島」	1933～44年頃	1	朝陽橋東橋詰辺りから北西方向を写したもの。左側が本丸で、中央の膨らみが櫓(天守)台といわれる張り出しである。右側が中の島	当館
25	「高岡公園(其三)」	1907～18年頃	1	現在の朝陽の滝付近から中の島を写したもの。遠景には二上山も見える	当館
26	「(高岡名勝) 古城公園の橋」	1907～18年頃	1	朝陽橋の橋脚の間から中の島方面を写したもの。右(北)の橋台部分には、築城時よりの石積みが見られる	当館
27	「(高岡名勝) 古城公園」	1918～32年頃	1	右側手前が現在の中の島に架かる北側の橋「二の橋」、その奥が中の島、左手の高台は小竹藪。この池は以前菖蒲池と呼ばれていた	当館
28	「(高岡名勝) 明丸から北東を望む」	1933～44年頃	1	桜花の中、明丸を歩く人々。右は現在の動物園。タイトルに「池の端」とあるが誤りである	当館
29	「高岡公園塵不溜池ヨリ郡衙ヲ望ム」	1907～18年頃	1	現在の古城公園前交差点から博物館のある鍛冶丸方面を望む。左奥には射水郡役所(1881年設置)がみえる。現在と異なり、樹木が少なく、土塁の法面がよく見える。「塵不溜」は枅形堀の別名	当館
30	「高岡公園」	1907～18年頃	1	明丸を博物館方面に向かって写したものか	当館
31	「(高岡名勝) 古城公園桜の朝陽橋」	1933～44年頃	1	タイトルに「太鼓橋」とあるが、「太鼓(太閤)橋」は現在二の丸から南西側の園外に架かる「駐春橋」の通称である	当館
32	「古城公園駐春橋」	1918～32年頃	1	現在の二の丸の護国神社付近から大手町方面を撮影したもの。この橋は湾曲が強く、「太鼓橋」(転じて「太閤橋」と呼ばれていた	当館
33	「高岡公園駐春橋ノ桜」	1933～44年頃	1	桜咲く駐春橋とその上を歩く人々。南外堀付近から二の丸入口付近を写したもの	当館
34	「高岡古城公園」	大正中期頃	1	二の丸の市民会館前より本丸の射水神社を写したもの	高岡市
35	「高岡公園」	1907～18年頃	1		当館
36	「高岡公園池畔ノ桜」	1918～32年頃	1		当館

37	「古城公園前堀」	1918～32年頃	1		当館
----	----------	-----------	---	--	----

2. 高岡市内

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先など
1	「高岡桜馬場」	1907～18年頃	1	桜馬場は1609年の高岡開町時に前田利長が造成した馬場に、のち利常が桜を植えたのがはじまり。明治後期から昭和前期まで、北陸有数の桜の名所として賑わった	当館
2	「高岡桜馬場公園」	1907～18年頃	1	桜馬場公園は1902年に公園化され、高岡市民のみならず、県内、県外（金沢や福井など）からも花見客が訪れ、臨時列車が運行されるほどの盛況ぶりだった	当館
3	「高岡桜馬場の景」	1909～18年頃	1	提灯が飾られ、桜花の下を人々が行き交っている。右隅に、1909年の皇太子行啓の記念事業として創設された「高岡物産陳列場（観覧無料）」の看板が見える	当館
4	「越中高岡市街」	1907～18年頃	1		当館
5	「（越中名勝）越中二塚村恒性皇子ノ墓」	1907～18年頃	1	原題は「越中方塚村恒生子ノ墓」とある。高岡市二塚・浄誓寺の南東73m、字山作にある。宮内省の実地調査を経て、1912年1月に陵墓として指定・告示された。恒性皇子(1305～33)は後醍醐天皇の皇子。父の討幕計画が発覚し、1332年に二塚に配流された。翌年、越中守護・名越時有に殺害された	当館
6	「（越中名勝）越中高岡瑞龍寺全景」	1907～18年頃	1	正面向かってやや右から写したもの。手前には蓮などの畑が広がる。左手前から総門、山門、仏殿が見える	当館
7	「高岡山瑞龍寺全景」	1907～18年頃	1	正面向かってやや左上から写されたもの。広大な畑が広がる。右手前から総門、山門、法堂が見える。藩の後ろ盾を失った瑞龍寺は、明治になり困窮し、境内地は切り売りされた	当館
8	「桜雲ノ八丁道瑞龍寺ノ遠望」	1933～44年頃撮影	1	八丁道とは、前田利長墓所と瑞龍寺を結ぶ約870mの参道。1646年の利長33回忌の折に、墓所とともに加賀前田家3代当主・利常が造営した。松と桜が交互に植樹されている。写真のタイトルが左書きであるので、戦後の増刷と思われる	当館
9	「（高岡名所）八丁道」	1933～44年頃	1	八丁道を歩く人々	当館
10	「越中 高岡 前田公ノ御廟」	1907～18年頃	1	前田利長墓所を斜め右から写したもの	当館
11	「（高岡名勝）前田利長公の墓」	1918～32年頃	1	正面奥に墓標とレリーフの基壇、門と玉垣がみられる。その手前の鳥居（1877年神明鳥居）に至る参道は1913年の墓所整備によるものと思われる。現在との違いは、鳥居の手前下に現在ある石製献花台（梅鉢文入り）が見られないなどが挙げられる	当館
12	「（高岡名勝）高岡停車場」	1916～45年頃	1	2代目高岡駅の彩色絵葉書。高岡駅は、1897年下黒田に置かれた中越鉄道(株)の黒田仮駅を前史として、翌年1月に同社の、そして11月に完成した官営北陸鉄道高岡駅を初代としている。2代目駅舎は、1916年9月に改築された	当館
13	「（高岡名勝）停車場構内」	1918～23年頃	1	写真手前側に7本の線路があり、一番左線路には写真奥（金沢方面）に向かって走る列車や、その1本おいて右の線路には煙を噴く蒸気機関車が見える。写真奥には島式プラットホームと跨線橋があり、中央右側の建物は2代目高岡駅舎。駅手前側の建物は荷物取扱棟。	当館
14	「高岡駅前バス待合所」	1950～51年頃	1	高岡産業博覧会開催の歓迎塔が建てられている駅前の様子	『高岡産業博覧会誌』（高岡産業博覧会事務局、1952年）

15	「七本杉（稀代ノ古名木）」	1907～18年頃	1	高岡・末広町通りにあった七本杉を中心に高岡駅方向を写したもの。七本杉は樹齢千年以上の老木といわれ、樹高は38m余りで7本の太枝をのぼしていたが、1894年の強風で2本となった。高岡駅前通りの中心にありこの七本杉により交通妨害を引き起こし、また老樹の衰えも進んだことから1927年伐採された	当館
16	高岡七本杉（末広町）通り	明治中～大正期	1	七本杉伐採前の末広町通り	当館
17	「末広町通り」	1930～36年頃	1	七本杉伐採後の末広町通り。写真遠景には高岡駅前にあったグリーンホール（1923年建築の百貨店）が見える	〔『富山県政史 第1巻』（富山県、1936年）より〕
18	「（高岡名勝）高岡市役所」	1913～45年頃	1	この庁舎は1913年に片原町交差点の東角（現・北陸銀行高岡支店）に建てられた。西欧風ゴシック様式のモダンな建築である。前庭は1948年開通の富山地方鉄道（現・万葉線）により大きく削られ、その軌道となった。	当館
19	「高岡市役所」	1913～36年頃	1	1913年片原町（現・北陸銀行高岡支店）に西欧風ゴシック様式のモダンな庁舎が建てられた	〔『富山県政史 第1巻』（富山県、1936年）より〕
20	「（高岡名勝）高岡市街の景」	1907～32年頃	1	高岡市御馬出町の様子を写したもの。右奥に見える洋風建築は1912年建築の高岡銀行（北陸銀行の前身）。左手前は高岡郵便局内に置かれた電話交換棟で、高岡で初めて電話交換が開始されたのは1907年11月のことである	当館
21	高岡市御馬出町の防火訓練（高岡税務署前）	1944年頃	1	高岡税務署は、1896年11月に、全国で初めて税務署が設置されたうちのひとつとして、高岡駅前に創設された。1931年1月には御馬出町（元・高岡連隊区司令部跡地。現・御馬出町交番）に移り、1963年4月には現在地（博労町）に移転した	個人蔵
22	「高岡市本町通り」	1907年頃	1	高岡市御馬出町から守山町を望む。右手前に見える建物は高岡郵便局内の電話交換棟	当館
23	「高岡銀行」	1907～18年頃	1	1889年4月市制施行と同時に開業した高岡で最初の普通銀行。御馬出町にあった由緒町人・服部嘉十郎家（御本陣）跡に設置され、1900年の高岡大火後、土蔵造りで2階建の行舎に建て替えられた。行舎左角には御馬出町交番が見える	当館
24	「（大一株式会社高岡青果市場全景）」	1918～32年頃	1	高岡・鴨島町にあった大一青果問屋（1918年設立）で、揃いの法被を着た社員11名が事務所内で仕事をする風景	当館
25	高岡市鴨島町 大一青果市場（梨作柄・景況照会状）	1918～40年頃	1	取引先への梨作柄及び景況についての照会状。中央には大一青果市場の写真が入っている	当館
26	「（高岡電灯株式会社）全景」	1934年	1	高岡電灯（株）が本町（のち本丸町）に1934年7月に新築した社屋の全景（設計は清水組の矢田茂）。同社は1951年北陸電力（株）高岡営業所、1960年高岡市役所庁舎となった（80年本丸会館。2012年解体）	当館
27	高岡電灯株式会社内「二階小会議室／一階営業室」	1934年	1		
28	「（雪の高岡）大仏」	1933～44年頃	1	雪の積もる高岡大仏前でお参りをする女子生徒の様子。円光背が付けられるのは1958年である。	当館
29	「（観光の高岡）日本三大仏の一 美男におはす高岡大仏／雪の古城公園」	1945年以降	1	円光背が付く（1958年）前の高岡大仏と、雪の積もる古城公園（駐春橋）を写したもの	当館
30	「（観光の高岡）高岡七本山車／筆頭大八車」	1945年以降	1	市内を高岡御車山が曳き回される様子を写したものの	当館

31	「高岡市博労町小学校奉安式」	1921年11月10日	1	高岡市博労町小学校（現・市立博労小学校）で行われた奉安式の様子。奉安殿には御真影（天皇皇后両陛下の肖像写真）や教育勅語を保管する建物である。戦前の学校には奉安殿があり、児童・生徒、教員らは登下校の際、この前で最敬礼をしなければならなかった	当館
32	「高岡市定塚国民学校奉安殿」	1942年9月21日～46年8月3日	1	同校（現・高岡市立定塚小学校）の奉安殿は卒業生らの寄付金により建てられた。落成式は1942年9月21日に行われ、1946年8月3日より取り壊し作業が開始された	当館
33	「（高岡名勝）小矢部川ノ下流」	1907～13年	1	小矢部川下流の様子が写されたもの。中央には江戸初期より水運の主役を担った「長舟」と思われる舟に乗った船頭が棹差している	当館
34	「戸出物産株式会社」	1896～1909年頃	1	1896年、地元の吉田養五郎らにより創設された繊維工場（前身は1893年設立の戸出物産合資会社）。2014年に事業停止・閉鎖される。戸出町の近郷は、古くから「八講布」といわれる麻布の産地として知られ、明治期に入ると同地ではとりわけ綿織物産業が発展した	『富山県写真帖』（富山県、1909年）
35	「戸出駅」	昭和期	1	戸出駅は1896年10月築。翌年県下で最も早く黒田一福野間に敷設された中越鉄道(株)の駅。施工は戸出の河合市兵衛と油田の平松達次郎。開業以来、改築はされていない木造平屋建である。2010年「とやまの近代歴史遺産百選」に選定された	『戸出町史』（戸出町史編纂委員会、1972年）
36	「豪雪下の中田町」	1963年	1	1963年の三八豪雪で雪に埋もれる中田町の様子	『中田町史』（中田町史編纂委員会、1968年）
37	「中田橋竣工式」	1908年8月6日	1	雄神川（庄川）に架かる中田橋の竣工式の写真。この橋は鉄筋の永久橋になるまでに2度も流失した	『中田町史』（中田町史編纂委員会、1968年）
38	「福岡駅前通りの桜並木」	昭和初期	1	1898年に福岡駅が開業し、駅前通りが整備された。両側に桜が植えられ、開花時には雪洞(ぼんぼり)をつるして賑わったという。大正年間に建てられた町役場も、この道路に面しており、福岡町のメインストリートだった	『福岡町史』（福岡町史編纂委員会、2004年）
39	「福岡駅」	昭和期	1	福岡駅は1898年11月1日に、「官営北陸鉄道福岡駅」として営業を開始した。この駅舎は1936年に建設され、現在の駅舎は平成期に建て替えられたもの	『福岡町史』（福岡町史編纂委員会、2004年）

3. 伏木・雨晴

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先など
1	「越中伏木港（其二）」	1907～18年頃	1	小矢部川左岸の河口港である伏木港の様子を写したものの。汽船が係留されており、多くの人影が見えるが、これは米や石炭を運ぶ女仲仕（女性の荷役）であると思われる	当館
2	「（越中）伏木港」	1907～14年頃	1	突堤の先に灯台（1915年築）はない。富山市総曲輪江尻真生堂発行	当館
3	「（越中名勝）伏木港」	1918～32年頃	1	数艘の船が伏木港に停泊している様子。煙を上げた蒸気船も見える。伏木築港工事は1900年に開始された庄川河道改修工事の付帯工事として実施され、1912年に完成した。それにより伏木港は大汽船が接岸し、貨客を直ちに鉄道に直結できるという利点をもつ日本海沿岸の最初の近代港湾となった	当館
4	「（嶋尾名勝）伏木港碇泊帆船露海出漁光景」	1918～32年頃	1	何艘もの船がロシア近海へ向けて出漁に出航しようとしている様子	当館

5	「伏木港」	1907～18年頃	1	伏木の教育・海運・築港などに尽くした藤井能三(1846～1913)は、『伏木築港論』(1891年)の中で伏木港を日本海対岸貿易のできる近代港湾に発展させることを説いた。1899年には能三をはじめ全県をあげての運動が実り、伏木港が全世界と貿易のできる開港場に指定された	当館
6	「伏木築港内上流伏木橋」	1918～32年頃	1	小矢部川左岸の伏木港上流(新島通り。旧如意の渡し渡船場)に架かる伏木橋と港に停泊する船が写されたもの(右が海)。伏木橋の前身は1883年築の寺畑橋(貨取橋)。写真の橋は1898年築の県営木造橋。長さ344m、幅4.2m。1909年築港工事のため撤去された。1911年にやや上流の伏木串岡と対岸吉久を結ぶ新しい伏木橋が架けられた	当館
7	「伏木埠頭」	1918～32年頃	1	中央奥の突堤に灯台(1915年築)が見える	当館
8	「突堤より眺たる射水川の全景」	1907～18年頃	1	突堤から射水川(小矢部川下流の古称)を写したもの。川の両岸(向かって右側が伏木)の間に、大小様々な船が浮かんでいる。北村書店(伏木中央町)発行	当館
9	「(観光の高岡)夕陽の伏木港と工場地帯」	1945年以降	1		当館
10	「雪中の伏木国分海岸」	1918～32年頃	1		当館
11	「雪中の伏木市街(二)」	1918～32年頃	1		当館
12	「義経雨晴 其二」	1907～18年頃	1	義経岩を近景に、女岩を遠景において写されたもの。義経岩付近に家屋がある。伏木港北村書店(伏木中央町)発行	当館
13	「越中 義経雨ばらし」	1900～07年頃	1	義経岩付近に家屋が建つ。海の水色などが彩色された「手彩色絵葉書」。「義経岩」は鎌倉幕府の追捕を受けた源義経主従が奥州へ落ち延びる途中、にわか雨の晴れるのを待ったという岩で、地名「雨晴」の由来となっている。2015年には「おくのほそ道の風景地」の一つとして「有磯海」(義経岩のある雨晴海岸一帯)が国の名勝に追加指定された	当館
14	「(越中氷見郡義経雨晴ノ景)」	1907～18年頃	1	氷見方面から義経雨晴を望む。表題は宛名面に貼られた紙に手書きしてあるもの	当館
15	「越中義経雨晴シ」	1909～18年頃	1	義経岩を近景に、女岩を遠景において写されたもの。避暑であろうか、数十人の人々が集まっている。高岡市棚田書房発行	当館
16	「義経雨晴海岸(二)」	1918～32年頃	1		当館
17	「義経雨晴」	1918～32年頃	1	氷見(右上)・伏木方面それぞれから見た義経雨晴の景	当館
18	「越中 義経雨晴の奇勝」	1918～32年頃	1	伏木方面より義経雨晴を望む。北村書店(伏木中央町)発行	当館
19	「伏木方面より眺たる雨晴」	1918～32年頃	1	手彩色絵葉書。富山市(総曲輪)江尻真生堂発行印あり	当館
20	「(越中名勝)義経の雨晴」	1918～32年頃	1		当館
21	「雨晴より岩崎鼻を望む」	1951年以降	1	高岡市の雨晴海岸から見える岩崎鼻灯台(1951年設置)を遠景に、手前には氷見線の車両が1両走る様子を写したもの。手彩色絵葉書	当館
22	「越中義経雨晴ノ男島」		1	雨晴海岸にある男岩を写したもの。表題には「雄島」とある	当館
23	「夏季の伏木海岸(其ノ二)」	1918～32年頃	1	伏木海岸で海水浴を楽しむ人々	当館

24	「夏季の義経雨晴海岸」	1918～32年頃	1	義経雨晴海岸付近で海水浴を楽しむ人々	当館
25	「義経雨晴出島と忠魂碑」	1907～18年頃	1	写真中央には女岩、右隅の義経岩上には忠魂碑が建つ。女岩は出島と呼ばれていたことや、現在の義経神社（旧・太田小奉安殿）のある岩上に忠魂碑が建っていたことがわかる。北村書店（伏木中央町）発行	当館
26	「（越中雨晴）義経の雨晴」	1933～44年頃	1	義経岩周辺で避暑に訪れた人々	当館
27	「（越中雨晴）雨晴全景」	1933～44年頃	1	高岡市の雨晴全景を伏木側から写したもの。写真右側には義経岩や義経社のほか、現在のJRにあたる国鉄氷見線が確認できる	当館
28	「（越中雨晴）松田江浜」	1933～44年頃	1	「松田江浜」は、氷見市島尾海岸の一角を指す。海水浴に来た人々が見える。英語表記もみられ、外国人向けの土産物でもあった	当館
29	「王子製紙伏木工場第一抄紙室」	1924～32年頃	1	同社は1919年設立の「北海工業(株)」にはじまる。1924年には「王子製紙(株)伏木工場」、1949年8月に「十條製紙(株)伏木工場」と改称した。抄紙機とは、紙を連続的に抄く機械	当館
30	「十條製紙・伏木工場・全景」	1951～52年頃	1	十條製紙伏木工場の全景。同社は王子製紙(株)伏木工場から1949年8月に「十條製紙(株)伏木工場」として操業を開始した。1993年日本製紙(株)伏木工場と改称（2008年閉鎖）	当館
31	「越中伏木測候所」	1909～38, 39年頃	1	高岡市伏木にある現在の高岡市伏木気象資料館の前身の富山県伏木測候所を写したもの。1909年に現在の伏木中央町から伏木古国府に移転建築された。測候所の屋根には、昨年復元された望楼が設けられている。北村書店（伏木中央町）発行	当館
32	「（伏木港）雲龍山勝興寺境内の大雪」	1933～44年頃	1	大雪の積もった勝興寺が写されたもの。右側に宝蔵、中央に手水舎、左側奥に本堂がある	当館
33	「東宮殿下の台覧に供したる獅子舞 其二（伏木休憩所）」	1909年9月29日	1	1909年に東宮殿下（皇太子）だった嘉仁親王（後の大正天皇）の北陸行啓で、伏木獅子舞を披露した際の写真	当館

II. 高岡市営繕課長・武波勝平撮影写真

1. 失われた銅像（高岡古城公園）

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先など
1	稲垣 示像	1941年2月	2	1915年園内小竹藪に造立（供出され現存せず）。原型・中野双山（高岡大仏の作者）。鑄造・山岸栄次郎。台座は暫く残った。稲垣（1849～1902）は現・射水市出身の自由党系の政治家	当館
2	上埜安太郎像	1941年2月	1	新発見写真。1937年小竹藪に造立（供出され現存せず）。原型・本保蘇堂。のち2体が造立（小矢部市と生家跡）。原型は高岡市福岡歴史民俗資料館蔵。上埜（1866～1939）は現・高岡市福岡町出身の政治家（衆議院議員、高岡・富山市長）	当館
	〔参考〕上埜安太郎像（小矢部市・城山公園）	2018年	1	1965年造立	当館
	〔参考〕上埜安太郎像（高岡市福岡町・上野公園）	2018年	1	1994年造立	当館
3	「国技」	1941年2月	1	1938年に三の丸・相撲場前に造立、翌年除幕式（供出され現存せず）。原型・長谷川義起。4代立浪親方（滑川市出身の元小結・緑鷲）の全額負担により造立された	当館
	〔参考〕「国技」	1933年	1	第14回帝展出品作	『高岡市史』（高岡市、1969年）

	「国技」除幕式	1939年8月1日	1		高岡市
4	「神馬」	1941年2月	1	戦前に本丸射水神社前に造立（供出され現存せず）。原型・米治一。鑄造・岩坪磯次台座は現存する	当館
	〔参考〕現存する「神馬」の台座	2018年	1		
5	噴水「唐子群像」	1941年2月	1	戦前に本丸北隅（現・児童公園北）に造立。年代・作者不明。戦時中に供出され、戦後も暫く台座のみがあった	当館 『高岡産業博覧会誌』（高岡産業博覧会事務局、1952年）
	像の無い噴水	1951年	1		
6	「鳳凰塔」	1941年2月	1	新発見写真。宮城方位指標。戦前、本丸に建立。年代・作者不明。宮城は東京の皇居で、集会の際等には遥拝（敬礼）が行われた	当館

2. 市民の暮らしと風景

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先など
1	宮城遥拝	1937～45年頃	1	高岡市大工中町・高蓮寺前。1937年の日中戦争の勃発以後、国旗掲揚や国歌斉唱、宮城遥拝（皇居への敬礼）とラジオ体操等が連続で行われた	当館
2	ラジオ体操	1937～45年頃	3	大工中町。ラジオ体操（当時は国民保健体操）は、銃後を護る国民体力向上と皇国精神徹底のために全国で奨励された	当館
3	整列する子供たち	1937～45年頃	1	高岡市大工中町・高蓮寺。町内の児童らが整列している。これから男女に分かれ、それぞれ勤労奉仕に行くものと思われる	当館
4	勤労奉仕に励む男子たち	1938～45年頃	1	畑の土のためか、男子たちが線路の盛土を削り運んでいる。戦時中は児童も「少国民」とよばれ、勤労奉仕として食料増産のための農作業などに駆り出された	当館
5	勤労奉仕する女子たち	1937～45年頃	1	高岡市大工中町・高蓮寺。畑にするのであろうか境内の石を拾っている。主に女子で、男子に比べ軽作業である。	当館
6	大工中町・常会	1941～45年頃	1	常会とは戦時中、国が国民統制のため組織させた、町内会や隣組などにおいて定期的に開かれた集会のこと。大きな日の丸や式次や十則からは当時の世相が窺える	当館
7	洗濯する女性	昭和前期	1	道端の用水で洗濯している女性	当館
8	子供たち	1941年2月8日	1	写真袋には「昭和拾六年貳月八日／畠 佐吉家子供撮影」とある	当館
9	神社にて（整列）	1945年以前	2	この写真から下2枚は同日の撮影。詳細は不明だが、市内の神社に子供たちをメインに右側に少し大人が整列している。祝祭日のイベントであろうか、日の丸を付けたロープが張られている	当館
10	神社にて（宮城遥拝）	1945年以前	1	宮城遥拝の直前であろうか、皆で同じ方向を向き直立している	当館
11	戦時中の楽しみ	1945年以前	1	もんぺ姿の女性が目隠しをして棒を振り下ろしている。何かの行事か、神社で笑顔の人々が大勢集まっている	当館
12	大工中町の子供たち	1937年以降	2	庄川に架かる高岡大橋（高岡市三女子～射水市大島北野）にて。1937年築の同橋は鋼トラス橋で、長さ約430m、幅7.5m。橋の上部に石川島造船所製の曲弦のワーレントラスが5連設置。日本の近代土木遺産2800選。富山近代歴史遺産百選	当館
13	高岡古城公園にて	昭和前期	6	武波氏が家族で古城公園に散歩に来た際の写真であろうか。公園内の各所で撮影されている。写真袋には「古城公園春之景撮影」とある	当館

14	守山城跡		1	二上山の西峰・城山(258.9m)に14世紀に築かれた山城。魚津市の松倉城、砺波市の増山城と共に「越中三大山城」という。麓には小矢部川が蛇行している。樹木が少なく、棚田状になった郭(城内の広場)がはっきりと確認できる貴重な写真	当館
15	二上山から東を望む		1	伏木の工場地帯や、富山湾が見渡せる。「伏木臨港工業地帯」は豊富で安価な電力、豊かな工業用水、整備された良港などのメリットも多く、1908年の北陸人造肥料(のちの日産化学)を皮切りに順次企業進出が続き、一大工業地帯が造成された。	当館
16	臨海教育	1937年以降	6	臨海学校のこと。学校名は不明だが、他の写真・資料から勘案すると市中心部の小学校かと思われる。市内の学校は海(雨晴海岸・松太枝浜)に近い太田小学校に間借りして臨海学校を行っていたという	当館
17	有磯正八幡宮		1	高岡市横田。横田正八幡宮と有磯神社が合祀された。もと有磯海(雨晴岩崎付近)に鎮座したが、波の浸食を避け高岡志貴野の山に遷され、慶長年間(1596~1615)横田正八幡宮に合祀された。初め有磯神社正八幡宮と呼ばれ、1804年に有磯神社となる。72年郷社に列せられ現在名に改称	当館
18	気多神社		1	高岡市伏木一宮にある延喜式内社。創立については諸説あり、能登が越中から分離した757年のあと、能登の気多大社の分霊を勧請して創建したため〈新気多明神〉と伝えられる。また717年に勧請したともいうが定かでない。室町時代の本殿は重文	当館
19	高岡関野神社		1	高岡市末広町。1919年に関野神社(熊野)と高岡神社(稻荷)を合社。加久弥神社(神明)と共に「関野三社」といい、神殿が3つ並んでいる。元は台地上の高岡城枳形堀(当館・動物園周辺)だった辺りにあったといわれ、〈高の宮〉とも呼ばれる。高岡御車山祭は春季例大祭	当館
20	射水神社		1	城内本丸にある延喜式内社。もと二上山麓に鎮座。717年、行基が養老寺を建立。〈二上大権現〉と称し、盛大を極めた。中世の戦乱で衰退。神体は男神坐像(重文)。江戸時代は前田家の祈禱所となる。1875年現在地に遷座。下写真は拝殿	当館
21	護国神社		1	城内二の丸。戦争殉難者等をまつた神社。1932年二の丸に創建された忠魂社が前身。39年内務省令により現在名に改称(射水神社の摂社「志貴野神社」とも)。51年の産業博覧会の際に射水神社境内に移り、62年に現在地に再び遷座された	当館
22	瑞龍寺		1	高岡市関本町にある曹洞宗寺院。山号は高岡山。1613年前田利長が建立した法円寺が前身。翌年没した利長の菩提を弔うため、利常が45年に起工(63年竣工)。1909年に仏殿が、28年に総門・法堂が旧国法に指定(50年に重文)。97年に仏殿・法堂・山門が県内唯一の国宝に指定された	当館
23	寿繊維工業(株)高岡工場	1937~41年	1	高岡市鐘紡町。市の誘致により1936年、日本ブルツウエスラー絹糸高岡工場が創業。翌年寿繊維に改称。41年に鐘淵紡績(株)に吸収合併された。翌年、名古屋陸軍造兵廠高岡工場となるが、戦後、鐘淵(のちの鐘紡)高岡工場となった。2007年、クラシエ(株)高岡工場となる	当館
24	高岡市街	1948~54年頃	1	片原町の消防署(1954年移転)の望楼塔より。右は高岡大和店。1937年開業の丸越百貨店が前身(43年に大和になる)。48年開通の富山地方鉄道(のち万葉線)の線路や遠景に立山連峰が見える	当館
25	大和高岡店の店内	1950年代頃	10	大和は高岡商店街の中心。前身は1937年開業の丸越百貨店(本店は金沢)。43年に宮市大丸と合併し、大和高岡店となる	当館

26	大和高岡店の屋上神社	1950年代頃	1	大和は1994年、店舗の隣に新築されたオタヤ開発ビル〈御旅屋セリオ〉へ移転したが、神社もその屋上に移されている	当館
27	高岡市街	1948～54年頃	2	片原町の消防署（1954年移転）の望楼塔より。上は西を望む。右（北側）の通りは1936年拡張の昭和通り。左の寺は超願寺。下は北を望む。右は旧市役所（1913～60）、遠景に二上山が見える	当館
28	雨晴海岸での海水浴		2	女岩に多くの人がいるのが見える	当館
29	富山県建築士会講演会	1952年以降	1	同会（1952年設立）の講演会。講師は建築家・岸田日出刀（1899～1966。東京帝大教授。東大安田講堂等を設計）、建築工学者・坂静雄（1896～1989。京都帝大教授。鉄筋コンクリート研究）、建築家・中村伝治（1880～1968。メートル法の普及、工業品規格統一に尽力。三越本店、東京株式取引所新市場等を設計）	当館
30	サンフランシスコ講和条約発効を祝う高岡市庁舎	1952年	1	市役所正門に「祝 平和条約発効」の看板と2本の日の丸を掲げる。サンフランシスコ講和条約（対日平和条約）は第二次大戦を終結させるため、日本と連合国との間で結ばれた条約。1951年9月サンフランシスコで、ソ連など3か国を除く連合国48か国と調印。1952年4月28日に発効し、日本は占領から開放された	当館
31	高岡市役所前にて	1952年	1	上の平和条約の写真と一緒に袋に入っていたので、おそらくその撮影時にいた市職員を写したものである	当館
32	サンフランシスコ講和条約発効を祝う大和高岡店	1952年	1	サンフランシスコ講和条約（対日平和条約）発効（1952年4月28日）を祝うアドバルーンを上げる大和高岡店。片原町の消防署望楼塔からの撮影	当館
33	武波家の姉妹	1941年2月	1	自宅内で武波氏の娘2人を撮影している	当館
34	高岡商工祭ポスター	1950年代頃	1	高岡商工祭は市と商工会議所の共催で、商工都市高岡を象徴する重要な秋祭り。なかでも「ミス高岡」のパレードは大いに盛り上がったという	当館
35	高岡市職員の慰労会	1950年代頃	1	寸劇でもしたのであろうか、それぞれ仮装をしている。最前列中央の丸眼鏡の男性は武波氏である。高岡市営繕課の慰労会などの宴会か、またはポスター写真があるので、商工祭の仮装行列の打ち上げの可能性もある	当館
36	ミス高岡博集合写真	1951年	1	二の丸・迎賓館前。高岡産業博覧会（1951年4～5月）に際し、宣伝も兼ねて全県からミス高岡博を募った。地元3紙の新聞投票により2回の選考を勝ち抜いた13名がミス高岡博として、来賓接待や宣伝などに活躍した	当館

3. 高岡市の施設

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先など
1	高岡市火葬場完成写真	1948年	2	高岡市四屋に1948年12月7日に完成。日本で最後といわれる寺院を模した木造火葬場。2009年4月、戸出西部金屋に移転した	当館
2	高岡市 高岡母子寮	1953年	1	1953年4月1日、高岡市横田に高岡母子寮が建設された。その関係者の写真であろうか（左から2人目が武波氏）。母子寮とは、戦争で夫や家族、また家を失った母子に対して支援を行う、児童福祉法（1947年）に定められる施設。98年の法改正により、母子生活支援施設に改称	当館
3	建築中の伏木中学校	1947年	1	同年4月1日設立、翌日開校された。92年3月に体育館が、95年9月に校舎が改築された	当館
4	高岡市軍人遺家族授産所	1937～43年	1	戦没者家族への職業訓練所と思われるが、詳細は不明。年代は「丸越／写真機部」と印刷されている袋に入っていたことからの推定	当館

5	健康保険高岡市民病院	1951年	2	1951年10月築。当初は向野町三丁目（元ハローワークの場所）に病床50床で建てられた（1966年に現在地の宝町に移転新築）。59年、総合病院。65年、「高岡市民病院」と改称。下写真は開院記念式典	当館
6	庶民住宅	1946～51年	2	戦後、国が建設した応急簡易住宅等のこと。1951年以降は公営（市営）住宅。写真袋に「横田／伏木」とあり、どちらかの写真と思われる	当館
7	建築中の保育所	1945年以降	1	写真袋に「保育所」とだけしか書かれておらず、詳細は不明である	当館
8	建築中の美術館	1950～51年	4	博覧会の美術館パビリオンとして建設され、博覧会終了後の1951年8月に高岡市美術館として開館した。戦後の日本海側初の公立美術館で、全国でも2番目に早い開館であった。武波勝平氏撮影	当館
			1		『高岡産業博覧会誌』（高岡産業博覧会事務局、1952年）
9	美術館完成写真	1951年	1	園内鍛冶丸（現当館常設展示場）。迎賓館（のち公会堂）と並ぶ高岡産業博覧会の恒久施設。会期終了後、市美術館として開館（1994年、現在地の中川1丁目に移転）。鉄筋コンクリート造、一部木造平屋建。設計は木村得三郎（1890～1958。大阪松竹座、京都・先斗町歌舞練場。東京劇場など劇場建築を多く手掛けた）	当館
10	高岡産業博覧会のための木材搬入	1950～51年	2	1951年4～5月の高岡産業博覧会の何らかの建築材を雪の高岡古城公園へ搬入している。	当館
11	「建築を急ぐ迎賓館」	1950年頃	1	1951年「高岡産業博覧会」各種会場として建築。木造3階建てで1,500人収容。博覧会終了後は市公会堂となった（左の建物は図書館）。武波勝平氏の撮影と思われる	『高岡産業博覧会誌』（高岡産業博覧会事務局、1952年）
12	迎賓館完成写真	1951～52年	16	園内二の丸。美術館と並ぶ高岡産業博覧会の恒久施設。木造3階建瓦葺。大講堂は1,500人収容。施工は旭日興業（東京）。博覧会終了後は市公会堂として活用された。1963年の豪雪により倒潰（66年、市民会館築）。向って左の建物は市図書館として活用された	当館
13	駐春橋	1950年	2	駐春橋は古城公園二の丸と園外をつなぐ橋。老朽化していたので、1951年11月30日高岡産業博覧会に際して改築された。木造で長さ22.3m、幅5.5m。また太鼓橋（転じて太閤橋）との俗称があるほど勾配が急であったので緩やかに改築され、また両側の道路も拡張された。1966年、永久橋に改築された	当館
14	中の島「茶房」	1951年	1	高岡産業博覧会に際し、中の島の南端水上（現・緑翠亭）に茶房（茶室）が建てられた。5.85坪で2坪の待合も付属。1951年4月3日竣工。施工は野村政次郎	当館

4. 市外の景

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵先など
1	砺波町東町商店街	1954年4～6月	2	砺波町東町（1952年まで出町。現・砺波市本町）商店街。現在の中央町交差点から南西を望む。上の写真左の看板に「富山博 魚津会場」とあり、ここからバスで富山産業大博覧会の魚津会場へ行くのであろう。また、同博覧会の会期中（1954年4月11日～6月4日）であることもわかる	当館
2	建築中の富山城天守閣	1953年11～12月	4	1954年4～6月の富山産業大博覧会の恒久施設。年代は鯨がまだ設置されていないことなどからの推察。解説板によると、彦根城や犬山城を参考に設計された鉄筋コンクリート造り。54年11月17日、本県初の市立総合博物館「富山市立郷土博物館」として開館。2003～05年に修復。04年、国登録有形文化財	当館

3	殉職警防団之碑	1941年1月	1	富山城址公園内に1940年12月に建立された。45年8月の大空襲を奇跡的に免れ現存している。警防団とは1939年、民間の消防や防災・防空のために組織された団体のこと	当館
4	富山市 国際劇場	1950年	1	富山市内の映画館。映画看板は「続・向う三軒両隣 第三話 どんぐり歌合戦」で公開年がわかる。また左下の壁に「喫茶東宝サロン」とある	当館
5	富山県庁舎本館	1941年1月	1	1935年築。設計・大熊喜邦（国会議事堂を設計した大蔵省営繕管財局工務部長）。重厚な外観で富山県戦前期を代表する大規模建築。激しい富山大空襲を奇跡的に免れた。2015年、登録有形文化財	当館
6	富山市 中央通り	1950年	1	総曲輪通り、西町と共に繁華街を形成。1948年に中町・袋町・東四十物町を結ぶ通りを総称して中央通りと呼ぶようになった。中央通りの富山映画会館で上映中の「ブロンディ子守の巻」（1950年公開）の宣伝の着ぐるみが注目を集めている	当館
7	皇居水堀とGHQ	1950年代頃	1	戦後GHQ（連合軍総司令部）として接收された「第一生命館」（東京有楽町）。1938年築。設計・渡辺仁・松本与作。施工・清水組。DNタワー21として現存	当館
8	皇居二重橋	1950年代頃	1	二重橋は、実はこの正門石橋のことではなく、この奥にある正門鉄橋のことをいう。江戸時代、木造の二重構造だったことから二重橋の名がついた。武波氏が上京した際に撮影した建築物の写真が何点か残されている	当館
9	帝国ホテル	1945～52年頃	1	皇居の向かいにある帝国ホテル（千代田区内幸町）は1923年築。設計は近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライト（米）。レンガ型枠鉄筋コンクリート造。建物内外は、彫刻された大谷石、透しテラコッタによって様々に装飾されている。中央玄関部は1985年に明治村（愛知県犬山市）に移築された	当館
10	日本勧業銀行本店	1950年代頃	1	日本勧業銀行本店（東京・麹町）は、1929年築。設計・渡辺節、施工・清水組（現・清水建設）。1981年に現在のみずほ銀行本店を新築する際に解体された	当館
11	富国生命ビル	1950年代頃	1	日本勧業銀行本店の向かいにあった富国生命ビル（旧・太平ビル、富国館）。1927年築。設計・吉武建築事務所、施工・戸田組（現・戸田建設）。1977年、新改築のため解体された	当館
12	鳥取県産業観光 米子大博覧会	1950年4～5月頃	2	鳥取県米子市で開催。戦後米子市の復興に寄与した。上は正門、下は観光館。撮影した高岡市営課長の武波氏は翌年に控えた高岡産業博覧会の事務局工営部副部長として、この年に各地の博覧会を視察している。米子、西宮（アメリカ博）のほか、神戸博（日本貿易産業博覧会）の記録写真も残されている	当館
13	アメリカ博覧会	1950年3～6月頃	2	兵庫県西宮市で開催された、戦後初の本格的博覧会。上は正門（阪急スタジアム）、下は米の議会議事堂のジオラマ。朝日新聞社主催、外務省・国鉄・西宮市等後援。連合軍総司令部（GHQ）の全面的協力によってアメリカの歴史と文明をジオラマ等で紹介された。入場者は約200万人	当館

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。

計178件240点